

教育長 様

校番 122 戸手 高等学校長  
( 全日制 課程)

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る  
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校  
令和4年度 実施報告書**

**1 学校の教育目標等**

(1) 教育目標

総合学科高校として、多様な学びを通じ、自らの道を切り拓き、変動する社会で活躍できる人材を育成する。

(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

育てたい生徒像

主体的に学び挑戦する生徒、地域に愛され地域に貢献できる生徒、自分と仲間を大切にする生徒

育成を目指す資質・能力

基礎・基本に基づく幅広い教養、気付く力、解決に向けて思考する力、論理的に相手に伝える力、仲間と協働する力

(3) 学科等の特色

生徒一人一人の個性を大切にし、自分の進路をしっかりと見つめられるよう、5つの系列を設定し、“総合学科らしい総合学科”を目指して、生徒の個性や地域との連携を大切にしながら教育活動を進めている。

**2 研究の概要**

(1) 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標

社会と自己を関連づけ、課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を目指す。

(2) 2年後の目指す学校の姿

自ら探究し、仲間と協力し、未来を切り拓き、地域に貢献する楽しい戸手高校

①生徒の姿

- ・主体的に課題を発見し解決することができる。
- ・しなやかで折れない心を持ち、仲間と協力して活動することができる。
- ・広い視野と高い目標を持ち、努力し挑戦し続けて未来を切り拓くことができる。
- ・地域に愛され、リーダーシップを発揮しながら地域のために貢献することができる。

②教職員の姿

- ・生徒の多様性を認め、心に寄り添い、生徒・保護者から信頼される教職員集団。
- ・生徒の個性を尊重し、主体性を引き出しながら学びをサポートする教職員集団。
- ・目指す資質・能力の育成のために、教育内容や方法を工夫し実践することができる教職員集団。

(3) 令和4年度の目標

ア アウトプット (活動指標)

前年度で明らかになった課題を、マスタールーブリックと単元ルーブリックに反映し作成する。それを活用し、教員による評価及び生徒自身による自己評価に活用し、指導に活かす。

イ アウトカム (成果目標)

ルーブリックによる「基礎・基本に基づく幅広い教養」「気付く力」「解決に向けて思考する力」「論理的に相手に伝える力」「仲間と協働する力」の評価結果がレベル3以上である生徒の割合が50%以上になっている。

#### (4) 令和4年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア カリキュラムの核とする教科・科目等名  
2年次「総合的な探究の時間」

#### イ カリキュラム開発の概要

(マクロレベル)

カリキュラム開発に先んじて、マスタールーブリックを使って育成を目指す資質・能力について対象学年である2年次の現状レベルと今後の課題を全教員で校内研修会にて共通認識を図った。

(ミクロレベル)

教育目標や育てたい資質・能力の育成に向けて、「総合的な探究の時間」を核としてカリキュラムの開発を行った。「探究」とは何かを理解することを目指し、実社会の中で実際に進めるために必要な探究サイクルを順序立てて学んだ。2学期からふるさと納税を活用した地域活性化のテーマで、外部専門家にマーケティングの視点から仮説の検証をしてもらいながら、1学期に学んだ探究サイクルを実際に自分で回す演習を行った。

#### ウ 校内体制

「総合的な探究の時間」の担当教員10人が共通認識を持って同じ授業ができるよう、授業時に活用するスライドと指導案を毎週学年会で共有し、授業後は、学年会で振り返りを行い、生徒の実態の把握をしながら、指導方法・目標の改善を行い、次の指導案に活かした。

#### (5) 学習評価

単元毎に単元ルーブリックを使った教員による評価及び生徒自身による自己評価を行った。また学年会で生徒の学習状況の把握を行って情報を共有し、指導方法・目標の修正を行った。

#### (6) カリキュラム評価

(マクロレベル)

2年次の1年間の学びが3年次にどのようにつながることができるか、3年次実施の「総合的な探究の時間」における課題や来年度の指導方針を各教科会で話し合い様々な意見が出た。ここで出た意見を基に、3年次実施の「総合的な探究の時間」の実施方法の変更を教育研究部で行った。3月下旬と4月上旬に全体に提案する。

(ミクロレベル)

6・7・11・12月に生徒による自己評価、10月にGPS-Academicを実施した。GPS-Academicの評価と生徒の自己評価に大差があった。ただ、1回のテストと数回に渡る授業を単純には比較できないため、今後より客観性のある評価方法を確立する必要がある。

### 3 令和4年度の成果及び課題

#### (1) 成果

10月に実施したGPS-Academicの結果では、協働的思考力(仲間と協働する力)と批判的思考力(論理的に相手に伝える力)は前年比より微増だが、評価Aの生徒の割合は少ない。創造的思考力(解決に向けて思考する力)は前年比より減となり、評価Aの生徒の割合も少なかった。11月下旬に実施した生徒による自己評価では、力が付いたと考える生徒の割合が、「仲間と協働する力」89%、「論理的に相手に伝える力」90%、「解決に向けて思考する力」96%となり、客観的評価と自己評価との差が大きく開いている。GPS-Academic実施後の1ヶ月間、探究サイクルの演習を繰り返し行ったことで、自己評価が高く出たと推測できる。これは12月に実施した1000字の文章表記による振り返りでも表れており、多くの生徒が「探究サイクルを意識して取り組めた」とする意見を書いていたことから、この指導が有効であったと考えられる。

#### (2) 課題

10月に実施したGPS-Academicの客観的評価によると、創造的思考力(解決に向けて思考する力)は前年比より0.9%減となり、さらに評価Aの生徒の割合も2.6%とかなり低かった。この創造的思考力(解決に向けて思考する力)は教員が指導で一番困難を感じた点でもあり、また生徒も49.8%の生徒が困難を感じたと回答した。GPS-Academicのテスト形態に慣れておらず、1回のテストだけで正しく判断できるとは考えにくい、教員と生徒も困難を感じている点は同じなので、今後どのように育成していくか指導方法を研究する必要がある。

#### 4 令和5年度の研究目標及び取組内容

##### (1) 令和5年度の研究目標

###### ア アウトプット（活動指標）

前年度で明らかになった課題を、単元ルーブリックに反映し作成する。それを活用し、教員による評価及び生徒自身による自己評価に活用し、指導に活かす。

###### イ アウトカム（成果目標）

ルーブリックによる「基礎・基本に基づく幅広い教養」「気付く力」「解決に向けて思考する力」「論理的に相手に伝える力」「仲間と協働する力」の評価結果がレベル4以上である生徒の割合が50%以上になっている。

##### (2) 令和5年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

###### ア カリキュラム開発の概要

###### 1) 3年次「総合的な探究の時間」の見直し

2年次で学んだ探究サイクルを活かし、主体的に探究活動ができるよう、以下のように変更する。

###### ◆指導体制

1. 各教科に紐づけてクラス編成をする考え方を撤廃し、10分野を選択していたものを4分野に統合する。
2. 該当の分野を選択している生徒の数によって教職員数を比例分配する。
3. 1人の生徒を複数の教員の視点から指導できるように、クラス制を廃止し分野ごとの担当に変更する。

###### ◆授業後の振り返り

生徒の進捗状況を確認しやすくするため、探究サイクルを活かした振り返りシートを活用する。

###### 2) 各教科によるマスタールーブリックの活用

授業で育てたい資質・能力を育成するためにはどのような指導がよいか各教科で協議し、それを基に年1～2回校内参観授業を行う。

###### イ 校内体制

学びの変革プロジェクト会議を軸に取組や方向性について協議し、教育研究部で具体的内容について検討し、学年会や教科会で共有し実施していく。